練馬･文化の会 会だより

共同代表：有原誠治　大内要三　小岩正子　小沼稜子　田場洋和　吉田巳蔵
事務局：森田彦一　TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616
（会費などの郵便振替：00150-7-130265　練馬･文化の会）　ホームページ　http://www.nerimabunka.com/

戦争法案ＮＯ！アベ内閣を許さない

嘘とごまかしで、世論調査に支えられてきた安倍内閣も、その世論調査で、陥落しようとしています。新聞社、民間放送の調査で、支持率がついに不支持率を下回った。それも、30％台に落ちました。国民が、衆議院の強行採決をノーと言ってのけたのです。若者たちもシールズを中心に、全国の主要都市で毎日のようにデモ、集会を行っています。

練馬でも、7月1日の練馬区民総がかりの「戦争法ＮＯ！ねりま集会&パレード」の成功で、各団体も、独自の集会、学習会、デモを成功させています。何といっても、地元の練馬で、光が丘で「国会前まではいけないけれど」区内ならと言う人を含めて、練馬区内中を「戦争法反対、安倍内閣辞めろ」の声で埋め尽くしています。

たたかいも、8月に入りますが、これからが、正念場。参議院での質疑応答が始まり、ますます、戦争法の危険性が、国民の前に明らかにされます。

7月24日の国会包囲から、26日（日）には14:00から国会包囲行動。28日（火）は、18:30から日比谷野音集会その後の国会デモ。30日（木９には、18:30～参議院会館前での行動が相次いでいます。

8月30日（日）14:00から国会包囲を一大結節点として位置付けています。

そのため、「戦争法ＮＯ！練馬集会」実行委員会では、８月29日（土）か30日（日）の午前中。練馬区内の第2回大集会を予定しております。前回1,350名と練馬区内始まって以来の参加者が集まりましたが、今回は、それ以上の人たちが集まって、練馬から「安倍ＮＯ！」を突き付けましょう。

（森田記）

大内要三さんの講演記録（6月29日）を同封しました。
戦争法ノー、安倍退陣の資料として積極的にご活用下さい！

大内要三さんが6月29日に東ねりま９条の会で講演した記録を小冊子（Ａ４・６Ｐ）におまとめ頂きました。戦争法案の廃案、安倍退陣に追い込むには何といっても我々自身がどれほど法案全体の中身を知っているかが勝負。事務局にご連絡いただければ、必要部数お届けしますし、大内先生の講師派遣もお世話致します。連絡お待ちしています。

転載・ＮＰＪ通信「練馬自衛隊基地ウオッチング」の抜粋

自衛官から陰鬱感漂う現場の声を聞く

練馬平和委員会　坂本 茂

最前線に立たんとする自衛官　本当のことを言えない彼ら　杢して死地へ赴くのか。東京。埼玉に所在する駐屯地・基地の陸自・空自（２士～３佐）正規自衛官・非正規自衛官（任期隊員）や予備自衛官に聞いた。

私は6月上旬、テレビ局や新聞社等から「自衛官を取材したい」と相談を受けた、自衛官たちに「テレビのインタビューを受けて」とお願いした。するとＡ君「取材するには上官に報告する！できない」さらに「シビリアンコントロールがあるから自衛官は暴走しない！周辺事態対処だ！戦争にはいかない！」とでたらめなことを教え込まれているとも話してくれた。

第一師団司令部のシンボルは富士山だ、練馬駐屯地内の各部隊ではなぜかフジサンケイグループの産経新聞かサンケイスポーツを圧倒的に愛読していることも影響しているかどうかは定かでない。

6月19日、自衛官が帰宅する夕方、陸上自衛隊練馬駐屯地（東京都練馬区：第一師団司令部）正門前で練馬平和委員会などが戦争法反対を拡声器など使い、配布する“戦争法反対”チラシに自衛官が列をつくった、もちろん迷彩色の作業服姿もいる。6月末から7月にかけて2週間、自衛官26人に聞き取りをした。10年前のイラク派遣時と全く様相が違い、昨年12月の秘密保護法運用開始が邪魔しているようにも見える。苦境に立たされる彼らに「俺は国会に署名を出したり、自衛官の命を大切にしろと時間の許す限り、この法律ばかり通してはならない」と彼らに寄り添いながらの聞き取りである。テレビのインタビューとは趣が違う。

それでは特徴的な自衛官の声を紹介しよう。

B君　「夏休み実家に行って戻らない隊員が出るかも

しれない・・・お盆休み、駐屯地内の独身官舎で暮らす隊員などは外出禁止になるのだろうか」。C君「何人かの准尉や3尉の上官も法律が決まったらどうしようか迷っている、自分より若い隊員はやめたいという、テレビ見て若い人が国会や渋谷でデモするのを見て嬉しい感激する」。

D君　「男の子が生まれたばかり、可愛い、妻も部外者へ不満を漏らしたらいけないと上官から命令されている」。E君　「俺たちの部隊は首都防衛だ!海外に戦争には行くことないと上官は言う?自衛官のインタビューするヤラセのテレビ番組には腹が立つ」。F君　「いつでもやめられるよと言われ入隊した、機関銃の実弾を朝霞射場(朝霞駐屯地訓練場内:埼玉県新座市)で紛失した時期は、1年間は他の部隊も動員して探した、土をふるいにかけて実弾探しに熱中したが発見できなかった、まだ見つかっていない」。G君　「2才の男の子がいる。お盆休み脱柵者(柵を超え脱走すること)が出るかも、法律決まったらやめるやつが相当出るかもしれない」。H君　「新聞やテレビのインタビューだけは勘弁して・・・志願する高校生などは軍隊になるのではないかと、親が入隊を認めようとしない。上司は2次3次と自衛官募集せよと形ばかり叫んでるだけだ、実際入隊する自衛官を増やす姿勢はない、やってもやっても報われない」。番外―36才警察官「安保法制は一方通行を逆走するようなものだ、絶対おかしい。俺の同級生は頭が良く中卒後、幹部候補生になるため自衛隊の高校へ入学した、とても心配だ」

1人5～6分の聞き取りだった。頭を刈り上げ、すごそうな海兵隊仕立ての自衛官も不安を隠せない。聞き取りのあと、全ての自衛官たちと握手すると目を輝かせ「お願いします」と、応対してくれた、自衛官たちに希望が湧いたように見えた。死の覚悟を強いられる自衛官にとっては生きるか死ぬか瀬戸際だ。これが全てではないが26名中すべての自衛官が不安を抱いているのは偶然なのだろうか。私は“戦争法案”が出てきて、士気が乱れっぱなしの自衛隊の現状を垣間見たような気がした。

集団的自衛権行使容認が閣議決定された2014年7月以降、練馬区内では自民党や公明党の議員も迷い始めて1年。彼らの「集団的自衛権行使反対で表には出られないが裏方で支援する」という声を聞きながら2015年7月1日、練馬区の歴史がはじまって最大のデモは飛び入りも含め1350人に膨れ上がった。飛び入りや、毎日新聞の折り込みで初めてデモに参加した人々、超党派の議員や元自衛官も駆けつけた。

1万人を超える自衛官やその家族の住む、二つの駐屯地を抱える練馬区、潮目が変わった。

今こそ戦争の記憶を受け継ごう！頑張れ　小岩昌子さん
8月1日：文化の会イベント、同7日：区主催イベント
同15日：ＴＢＳ「報道特集」に語り部で登場

戦後70年、戦争法ノーの声が強まる中、50回を超す「風船爆弾」の語り部を行ってきた小岩さんが各方面で引っ張りだこです。8月7日（金）に文化センター大ホールで行われる区主催の「平和祈念コンサート」では、区の主催者あいさつに続いて、「戦争」語り部として20分にわたり独演します。同コンサートは抽選で受け付けるほどの人気イベントで7月15日締め切りで抽選を打ち切っています。今からでの申し込みは間に合いません。

その前の8月1日（土）には文化の会主催で、小岩さんが進行役（コーディネーター）を担当しての第3回「戦争」語り部企画が「銃後の守り」をテーマにココネリで後2時～5時まで行われます。語り部になっていただくのは元教員の皆さんで、望月さんには「東京空襲」、矢島さんには「学童疎開」、川崎さんには「満蒙開拓団」をテーマにお話しいただきます。

そして8月15日にはＴＢＳテレビの「報道特集」（後7時～9時）の終戦特集に登場するということです。すでに取材はすんでいますので、どんな形で登場するのか、楽しみです。

（田場記）

開進教育懇：お気軽にご参加を！8月2日（日）後2時～「教科書採択」がテーマ
「今練馬の学校は？」の懇談記録を是非お読みください！
開進教育懇事務局　浅原　修一

その内容は本当に気になることばかりでした。５月２３日の教育懇談会は、「今、ねりまの学校はどうなってる?」―　気になるところ一挙総覧　―　ということで学校の先生方や保護者、祖父母、学童スタッフ、区議会文教委員会の区議などが、地域の人達を交えての報告会でした。数ある気になる事柄を駆け足で報告と意見交換をした３時間でした。聴き通して思うことは、学校がここまで時流のしわ寄せを受けているのかという驚きです。「しわ寄せ」というと副産物のような感がありますが、時の政治権力が作りたい明日の社会のモデルを、学校という苗床で意図的に実践させているとすれば、彼らにとっ

て学校は明日の日本の前衛です。すなわち、国に悪しき時代が迫りつつあるとすれば、それは子どもたちの学校にすでに密かに迫っています。健全な市民社会の使命は、すべての優先させるべき社会運動と、常に平行して、子どもたちと子どもたちが信頼する先生たちを意識して見守ることだと思うのです。けれども、急速に変わりゆく学校のことを、学校の外の私たちはあまりにも知りませんし、真実の情報に接することもありません。ですから今回の懇談会の発言の数々を、「懇談会レポート」としてまとめました。一人でも多くの区民の方に知って頂きたい内容です。是非お読みください。そして感想やご意見を聞かせてください。ご一緒に区民の声を上げていきましょう。

来たる8月2日(日)午後2時～４時30分　開進第二小会議室にて、次回の教育懇談会を開きます。討論の主題は「教科書は、どのように採択されているのか?」―　その決め方への疑問　・　本当に良い教科書とは　―　です。

教科書は検定に合格した教科書の中から、練馬区の教育委員会が4年毎に決定します。しかし、その採択に当っては、実際に使用して授業をする教師たちの意見が最大限取り入れられるべきところですが、今年からその方法制度が大幅に変えられてしまいました。先生たちの調査意見が聞かれない制度とはどういうことか。それは何を目的としているのか。このような制度の向こうに何があるのか。徹底して議論したいと思います。また、戦争を肯定する記述の多い育鵬社の歴史教科書と従来の教科書を比べて、本当に良い教科書とは何なのかを考えたいと思います。ふるってご参加ください。

「沖縄戦考える練馬の集い」に150人が参加：オール沖縄の仲里衆院議員が熱弁

沖縄戦を考える練馬の集い2015実行委員会　柏木美恵子

今年で6回目となる「沖縄戦を考える練馬の集い」。7月9日にココネリホールに150名の参加を得て、＜原点は沖縄戦「オール沖縄」の魂を伝える＞と銘打って1部では仲里利信さんに、2部では猿田佐世さんにお話し頂きました。

仲里さんは2007年、沖縄県議会議長として「沖縄戦教科書検定意見の撤回を求める県民大会」実行委員長をされ、保革を問わない沖縄のアイデンティティを、政府へそして全国へ示されました。

その後、後援会長を務めていた自民党の西銘恒三郎議員が2013年に公約を翻して「辺野古新基地容認」に変わった時、後援会長を辞任され、翌年1月に行われた名護市長選で「辺野古新基地を作らせない」を公約に再選を目指す稲嶺進氏の応援に自ら駆けつけて再選の大きな力となり、11月に行われた沖縄県知事選では、やはり公約を翻し、辺野古の海の埋立てを承認した仲井眞県知事の対抗馬として立たれた翁長雄志那覇市長の選挙に心血を注ぎ、10万票の歴史的大差をつけた当選を勝ち取られました。

そして12月、安倍政権による「身勝手解散」で衆議院選挙が行われることになった時、77歳の仲里さんは、「辺野古に新基地は作らせない」という「オール沖縄」のシンボル的存在として、西銘氏と選挙を闘うことになり、見事に西銘氏を破って当選されました。

8歳の時に沖縄戦で多くの親族を亡くされ、アメリカ軍収容所で言葉にできない辛酸を嘗め、戦後は保守政治家として激動の沖縄で生き抜いていらした仲里さんの「沖縄を二度と戦場にしない。米軍基地を孫子の代まで残したくない」という言葉は、私たちの心に深くしみるものでした。また、「僕は自民党を除名になりましたが、変わったのは自分ではなく、自民党の方だと思います。」という言葉には、地元に密着して住民の命と暮らしを守ることを第一義に考えてきた「保守政治家」の自負を感じました。

安倍政権が、県民の声にまったく耳を貸さず辺野古新基地建設を押し進め、憲法を壊す安保法制が審議されているまっただなかでの仲里さんのお話しは、参加して下さった方々や私たち実行委員会のメンバーに、自分たちの足元から声をあげていくパワーを与えて下さいました。

2部では新外交イニシアティブ(ND)事務局長で弁護士の猿田佐世さんから、辺野古を始めとして日本の政策に影響を及ぼすワシントンに対し、民間からどのようにアプローチをしていくべきかという大変刺激的なお話しを伺いました。多くの参加者にとって新しい視点からの取り組みで参加者から「目からウロコ」という感想を頂きました。

図書館に置いたチラシを見て来て下さった方が「沖縄の肉声を聞いたのは初めてです。おそらく本土の多くの人が、私と同じく直接、聞いたことはないと思います。今後とも繰り返し実行して下さい。」と感想を書いて下さいました。会にとってこれほどの励ましの言葉はなく、改めて地域で発信し続けていくことの大切さを感じました。

＊「沖縄戦を考える練馬の集い」2007年の沖縄戦「集団自決」教科書検定問題を端緒に2010年から区内の労働組合・市民団体10団体が実行委員会を作って沖縄戦から繋がる現在の沖縄の問題をテーマに、毎年6月23日の沖縄慰霊の日前後に集いを開いています。

木谷八士氏によるフリートーク「孤立死本格化時代」に約４０人が参加
団地自治会が区長と昨年９月に「異変通告協定」を締結

文化の会が15年度の第１回フリートークとして取り組んだ木谷八士による「高齢者の暮らしと健康」は7月9日にココネリホールで行われ、予想を超える約40人近い参加がありました。木谷さんの話は、光が丘団地での体験に基づいた実践的な話で、ご存知の木谷節の口調だけに迫力と説得力満点でした。当日は50分の孤独死を描いたＮＨＫスペシャルを上映（関連新聞記事も配布）したほか、木谷さんが編集委員長を担当して作成された「おせっかいなまち光が丘～孤立死ゼロをめざして～」（A4・40P）、木谷さんが10回にわたり連載した「ＮＰＯニュース」の「われは行く「おせっかい」と言われても」の資料などが配布されました。孤立死問題は団地だけでなく、どこの自治会、町内会でも大きな課題になっています。特に区長と締結した「異変通告協定」は大事です。来年の「テレビみつがしわ」のテーマに提案したこともあり、この「孤立死」問題は第２弾、第３弾の深みのある取り組みが必要のようです。

（田場記）

永田教授の迫力ある講演「ベン・シャーンを追いかけて」に40名が参加

練馬・文化の会美術会運営委員長　　吉田　巳蔵

去る７月１４日、江古田のギャラリー「古藤」にて「ベン・シャーンを追いかけて」の講演会が開催されました。講師は、この本の著者でもある武蔵大学教授、永田　浩三先生によりプロジェクターを使いながら２時間の講演が行われました。この日は、国会では戦争法案が委員会で政府与党が強行採決で歴史に汚点を残した日でもありましたが、当美術会はもとより練馬・文化の会のみなさん含め、会場いっぱい３９名が参加されました。

ベン・シャーンという画家の魂をあますことなく調べ、彼の生地リトアニアから現地に赴き亡命先のアメリカまで取材された迫力ある講演でした。

いうまでもなくベン・シャーンは、独特の震える線で、水爆反対・えん罪・社会の不正義を描いた画家でした。ビキニ環礁で水爆実験の被害で亡くなられた久保山さんをモチーフにされた「ラッキードラゴン」をはじめ広島、長崎へ原爆投下指示したトルーマンを告発した絵、また、えん罪で死刑に送られたサッコとバンゼッティの絵のお話は心に響きました。

ベン・シャーンが、あの厳しいマッカーシー旋風のなかでも権力に立ち向かい、貧しくてもたくましく生きる名もなき人にいつも心を寄せていたことに感銘しました。

講演の中で私は、二つの事が特に印象に残りました。一つは、芸術家は、社会の流れをトータル的にみて生きるための新しい方向性を示すこと。もう一つは、社会の悪は、権力者ではなくそれを黙ってみている人たちだ。これはその通りと思いました。

日本も機密保護法、言論弾圧、戦争法案と着実に進められてきており、これを何としても打ち破る運動が今大きく問われております。どんな時代もあたりまえの生活ができることの平和の尊さがどれほど大切かと思います。

永田先生が、著書で線描写のところで共鳴・共振の意味のくだりがあり私なりに、弱者は正義に対して共鳴したらそれを共振させて伝え広めていくことが大切ではないかと感じました。懇親会も１３名参加でとても勉強になり、親睦できました。永田先生はじめ会場提供の田島様ご夫妻に感謝申し上げます。

「テレビみつがしわ」制作再開：武蔵大学の「アスベスト惨禍」の取材進む

永田教授交え学生スタッフ５人と文化の会５人が顔合わせ（７月１４日）し、「アスベスト惨禍」の制作意図、取材状況などについて意見交換しました。永田教授からは「静かな爆弾が牙をむく～アスベスト被害・クボタショックから１０年、今何が～」のメモにもとづき、国策として普及がはかられたアスベストが工場労働者だけでなく周辺住民にまで被害を及ぼした状況、国際的な問題にもなっていることの説明がありました。

文化の会からは次回のテーマとして「孤独死」問題の提案があり、木谷トークの際に配布された資料が配布されました。学生さんの昼休み時間を利用しての打ち合わせでしたので、十分な時間は取れませんでしたが、永田教授からは４０分くらいの番組で、Ｊ：ＣＯＭでの放送を予定しているとの説明がありました。

（田場記）

年会費２０００円納入のお願い

１５年度会費の納入を始めています。前回のお願いで２０人近くの会の方員から納入いただき有難うございました。未納の方には振込用紙を同封いたしました。行き違いなどありましたら、お問い合わせは会計担当・轡田（自宅℡　３９４８－５１２９、携帯℡　０９０－９８０９－８５９１）までお願いいたします。